

平成25年度 第2回議会報告会での主な発言等
(区別集約)

○：参加者の発言要旨

→：議員の答弁要旨

1. 北区会場

(議会報告)

- 議員定数削減の議員提案が3案出てきていたが、案を一本にまとめてから上程する必要があったのではないかと。
 - 議員定数調査特別委員会で出てきた案が3案あり、一本にまとめるべきとの意見もあったが、3案は各会派の主張からきているもので、このようになった。
- 決算特別委員会について、審査を深めるために4分科会としているが、4分科会であれば、特別委員会を作らずに常任委員会で審査してもよかつたのではないかと。
 - 時間が掛かり過ぎることもあり、また常任委員会委員にこだわらず、委員がどの分科会にでも参加できるようにするために、2分科会を4分科会とした。
- BRTのバス購入等のための予算執行を遅らせたことについて、議会側は市民及び議会への説明不足ということで、市側の責任としているが、議会側にも責任があると感じる。環境建設常任委員会の審議についてもう少し具体的に教えてほしい。
 - 2回目のBRT市民説明会が行われ、また試乗会も行われた。3回目の市民説明会、また2回目の試乗会も計画しており、その中で市民の積み重ねられた意見をきちんと聞いて対応していくようにしている。
- 保育園で子供を預かる定員を増やすということはよいのだが、保育士の人数と実態があていない。もっと保育士を増やす施策をとってほしい。
 - 新潟市は待機児童ゼロの方針をとっているが、年度当初はよいが秋口になると厳しい状況になると認識している。保育士を必要としている現状があることから今後、市に要望していく。
- 国の方は在宅介護に力を入れてきているが、要介護4・5になるとほとんど寝たきりの状態になる。新潟市は訪問診療の医師が少なく、どうしてもこちらから出向くしかない。介護タクシー、訪問診療の医師を増やす施策をとってほしい。
 - 今年度、中央区でモデル事業として、地域包括的に介護と医療をあわせて見ていくようにしている。モデル事業を検証しながら、要望していく。

(意見交換)

- 議会報告会が4回開催されているが、出席者が少ない。区選出の議員がその区の報告会に出席していないことも原因の一つでは。議会で検証されるべきと思う。
 - 他市のことも参考にしながら、広報委員会で検証していく。
- 決算特別委員会は、所管の常任委員会の審査でもいいのではないかと。
 - 他政令市の中には決算だけでなく、予算も特別委員会を設けて全員参加で行っている。今回のことを検証して、進めていきたい。
- 平成26年度で合併建設計画が終わる。少子高齢化(人口減社会)に向けて、新総合計画について議会側から積極的な議論がされることを要望し、今後新潟市のあるべき姿を描いてほしい。

- 今新潟市で防災計画のパブリックコメントがされているが、災害が発生した時の議会の対応が見当たらない。議会としてどのように対応するのか示してほしい。
 - 過去に災害対策本部長は市長，副本部長は議長と決め，災害時には議員全員が招集され，災害についてどう対応するのか決めたはずだが，現在それが継承されていない。東日本大震災以降市議会としてどうしていくのか検証がされていないのが実態。今出された意見は大変重要な意見と思うので，検証していきたい。
- 議会報告会は，決まったことの報告がほとんど，市民の関心の寄せていることをもっと取り上げ意見を聞き，議会の参考としてほしい。
- 水と土の芸術祭の効果について決算特別委員の中でも，もっと検証する必要があると思う。
 - 今まで議案が出されるたびに，検証はしてきたが，今後は，根本から見直し検証していく。
- 現在新潟市で進めているスマートエネルギーについて，設置した風力発電のプロペラが壊れたことについて，議会側としてもっと検証されるべきではないか。
 - 日和浜に設置されている風力発電は，5基ありそのうち1基が落雷による破損と聞いている。全国的にも落雷による事故はあるが，対策が必要だったと思う。こういう事故のために市民から理解されない部分もあると思うので，今後，市はもっと市民啓発していく必要があると思う。
- 北九州空港は24時間営業をしており，また福岡空港では民間管理で，一月に1回イベントによる集客を行っていた。新潟空港は，5時半になると食事もできないなど遅れていると感じた。新潟空港も民間管理にし，活発化してほしい。
 - 民間管理にすることについては，新潟の場合は国の最終決定ができていないので，その結果待ちという状態である。
- 市長が，防災首都，新潟州構想を打ち上げたことはよいことだと思うが，その後に繋がっていないような気がする。議会として指摘しているのか。
 - 大都市制度調査特別委員会において議論している。新潟州構想について，当初の説明では，県域を越えた道州制のイメージを抱いたが，新潟県知事，新潟市長の中では，圏域内での合併について考えていた。しかし今や県と市の二重行政解消についてモデル的に話し合われているのが現状である。
- 新潟市の産業振興について，企業は東港周辺に工業団地が欲しいと言っているがやってくれない。企業誘致や雇用政策についてもっと積極的にやってほしい。
 - しっかり市に訴えていく。

2. 東区会場

(議会報告)

- 憲法96条先行改定に反対する意見書とあるが，国政に関するもので，なおかつ憲法96条にはいろいろな問題がある。こういう意見書の提出は新潟市民が反対しているということにならないのか。市議会がこういう議決をすることは妥当なのか。
 - 国政に対する議会の考え方を提出することは，今までもあった。議会で憲法改

正をすることはどうなのかを審議して、提出した。新潟市民が反対したということではなく、議会としての考え方を出した。

○ 議員定数を減らさなければいけない理由と、5減に決定した根拠はなにか。

→ 0減と8減が否決され5減となった。5減の理由は、どこの区が減るのか、議会を運営するためには何人が適切なのか、現在の社会情勢の中で議員定数削減という意見が多いが、何人削減した方がいいのかなどを議論した結果、5減とした。また自治協やコミ協の活動も充実してきており、議会の役割が自治協やコミ協にも移ってきているのではないかということも削減理由の一つ。

○ 自治協と議会は全く別。議会には議決権などがあるが、自治協にはない。もっと議員は減らすべきではないか。

○ 政策論議ができるような政策討論会を早急に立ち上げるべきではないか。

→ テーマを決めて特別委員会を立ち上げているので、市民の期待に添えるようにやっていきたい。また議会改革推進会議の中で、議員間討議ということで、議員同士で議論をしようということを検討している。

○ 議員がボランティアであれば、何人いてもいいが、そうではない。問題は報酬などの議員の待遇。自分のことは自分で決めて、市民が意見を言う場がない。今後も努力をしてほしい。

→ 報告会で今のような意見があったということは、議員に伝える。

(意見交換)

○ BRTを公設民営にした理由はなにか。

→ バスに乗る人が少ないところだと、障がい者やお年寄りが乗れない地域が出てきているため、公設民営がベターであろうということで、公設民営とした。

○ BRTについて、議会でどこまで議論されているのか。話の発端は古町のまちなか再生だったと思うが、その辺の話が見えてこない。どうまちなかを再生していくのか、議会での議論の経過を教えてほしい。

→ 議会でもいろいろな意見が出ている。議員一人一人が将来を見据えて、どう判断をするべきか話はしているが、一つにはなっていない。古町の活性化については、環境建設常任委員会でも、長い目で見ている。

また委員会ではないが商業振興議員連盟を立ち上げて、少しでも新潟市が活性化するように、意見交換、勉強会や視察など、会派を問わず行っている。

○ 公共交通機関は便利にすることで集客率が上がる。乗り換えなどさせたら、将来的に新潟の公共交通機関はどうにもならないと思うが。

→ 市が開催している説明会に参加して、しっかりと意見を言った方がいいと思う。そこで質問してもらえば、より正確な回答が得られると思う。連節バスとBRTは違う話で、BRTは定時性や速達性を重視したシステムでやっていこうというものであり、連節バスを入れるかどうかということとはイコールではない。オンブズマンは連節バスについて費用対効果が見込めないことを問題にしている。

結節点については市民の皆さまの抵抗感が強いが、議会としても、市民の気持ちを考えたうえで、どうした方がベターなのか議論していきたい。

○ 議会の中でコミュニティ協議会の活性化を取り上げる委員会があるのか。議会の人と懇談できるシステムはあるのか。

- コミュニティ協議会は市民厚生常任委員会が担当。また議員との懇談はやっている区もある。そういう場を主催してもらえれば、参加する機会はある。皆さんの方からも地域の議員に働きかけてもらえれば、喜んで参加する。コミュニティ協議会に活動資金がないことは、議会でも問題としている。
- 新潟交通はバス事業を縮小せざるを得ない状況になっていると思う。そういう環境の変化に対して適切な手が打てなかった結果、助けを求めてきたように感じたが。
 - BRTの話は新潟交通が言い出したことではない。BRTについては連節バスのことではなく、もっと地域の公共交通をしっかりとしてほしいという部分を議論した。公共交通をもっとしっかりとしようということが議会の結論。
- 議員と選挙民との間で、いい形での緊張感が持てる場をもっと持つことで、選挙民も議員も意識が高まると思うが、そういう場はあるのか。
 - 開かれた議会を実現しようということで、この会を開いて皆さまに報告をしている。目に見える議会を目指して、今後もやっていきたいと思っているので、皆さんからも参加してもらい、いろいろなご意見をいただきたいと思う。

3. 中央区会場

(議会報告) ※質疑なし

(意見交換)

- ポイ捨て禁止の表示が曖昧で区域がわかりづらい。(例：万代地区)
 - 具体的なエリアについて、後日お答えする。
- 街頭の公共施設表示が合併地域で旧表示のままのところがある。
 - 旧表示による誤りは改善を指示する。
- 年2回の報告会では話題がタイムリーではないが有意義であり参加していきたい。
- 質問に対して後日回答となった場合は、どこで確認するのか。
 - 回答は議会ホームページに公表し、議会事務局にも用意している。個別案件については臨機応変に対応している。
- わかりやすく工夫してほしい。
- BRTについて先回の中央区議員選挙公報で誰も触れていないし、図書館に関連本もない。公になって間もない計画である。アンケートに左右されないでほしい。
 - 新たな公共交通については数年前から検討はされてきている。BRT導入計画は中央区だけでなく全市的な路線再編も含まれている。
- BRT連節バス反対署名運動をしている。高額なバスは不要、税金は子どもたちや福祉に使ってほしい。議員は市民の声を反映しているのか。一人一人に聞きたい。
 - これまで新しい公共交通のあり方を協議しモノレール、LRT、BRT、3案の中から段階的に協議してきた結果、BRTとなった。公共交通全体のあり方を協議して積み重ねてきたもので、金額や事業費が高い低いなど個別部分でイエス・ノーと答えかねる。ただし期間を決めず議論しようというのが現状である。
- アンケートの回答では肯定的なものばかり掲載していて、反対の意見は取り上げられず、それに対する説明もない。

- これから3巡目の説明会に入るが、市は今、バス利用者などに対してアンケート調査をやっており、その結果を12月議会で示したいとしている。説明会での市民意見だけでなく、実際の利用現場からの意見も参考にしながら判断していく。
- BRTについて、アンケートの集約よりも先にやることは民意を問うことである。導入ありき補助金ありきで説明会になっている。裏でお金が動いているという不信感がある。議員は市民の声に耳を傾けるべき。
 - 声を受けとめて進めていく。
 - 市有地売却について、市民病院跡地・旧青果市場跡の状況はどうなっているのか。
 - マスコミ情報はあがるが、それ以上はない。売却方針だが、確定した事実はない。
 - 墓地霊園が不足しているようだが、どう対応しているのか。
 - 平成23年調査の結果、ニーズが高かった。一方、市内既存墓地に余裕があることも分かった。内野霊園で区画拡大したが、墓地を持たない新しい形態も検討している。
 - 県が外国人土地取得に関する条例を検討しているようだが、市も制定してほしい。
 - 議員の答えが一般職の公務員のような。地元議員がいない、個人意見も言えないでは意味がない。
 - 報告会は個人意見の発表の場ではなく議会として対応する。

4. 江南区会場

(議会報告)

- BRTの問題は住民投票で決めたらどうか。
 - BRTの問題は議会でも議論している。投票の予定は今のところ無い。
- BRTのメリットで郊外路線の増便などがうたわれているが、その数字は机上の計算ではないか。実際には乗り換えも不便。議会として市民の声をどう把握し、どう考えるのか。
 - 説明不足のため実施を平成27年に延期したが、議会としては2月議会で関連予算をいったん通しているという責任もあり、議論を深めて行きたい。
- 車を何台も持てるお金があるのに、下水道に接続していない人がいるのは問題ではないか。
 - 地域によっては下水道管がなければ接続できない。罰則があるわけではなく、基本的に個人の問題だが、議会としても接続率の向上は重要な課題と考える。

(意見交換)

- 連節バスについて市民への丁寧な説明がなく強引。新潟駅～青山までの地域に限定的で、他の区域には大したメリットが無いのではないかと。現在は住民バスなどがあり、二重の交通体系でよいのか。新潟交通一社にこれだけの支援はおかしいのではないかと。
 - 賛否はあるものの、連節バス導入による余力を他の地域に振り向けるという考え方。また新潟交通になぜこれだけの補助が必要かという意見もあるが、今以上に悪くなるとますます不便になって悪循環に陥るといふ事情もあり、議会として

は、良い面や悪い面を議論して行きたい。

- 水害の問題で、水位や避難勧告などの情報がスムーズに周知されるようなシステムなども含め、河川や水害対策の専門家アドバイスを受け、現在の対策が適切か診断してもらうようなことが必要ではないか。また長期的な展望が必要と思う。
- 東区に雨水の湛水施設がつけられ、石山地区にも予定されているが亀田地区には必要ないのか。
 - 国交省も津波・洪水対策のための工事を進めている。各地の排水施設や湛水施設は床上浸水を繰り返すような地域を優先して順番に進めている。ただ、現状の対策では最近の豪雨でかなり厳しい状況もあり、平成23年の豪雨では中ノ口川の水位が限界近かったため、中ノ口川を国が管理することなどを県・市で要望している。われわれ議会も市と一緒に国への必要な働きかけを強めて行く。
- 新潟市の国保料は高い。
 - 国保料がどうあるべきかという議論はあるが、前提として、国保会計は国からの財源や市民の保険料の他、一般会計からの繰り入れの程度、地域の年齢構成や健康状況も反映され、単純には比較できない。
- 議員は報酬に見合う仕事をやっているのか。議会日程以外は何をやっているのか。
 - 議員側のアピールが足りないかもしれないが、議会の無い時にもさまざまな課題や地域の会合への参加など、日常的に活動している。
- 議会報告会の参加人数が少ない。
 - ビラ配布など、周知活動もがんばっているが実態や原因を検証したい。
- 街路灯の助成等、区ごとにいろいろ取り決めが異なるがどうなっているのか。
 - 合併の過程でさまざまな制度や施策を旧新潟市基準で統一を図っているが、一部で経過措置として残しているものもあり、これは次第に解消される。また除雪など、合併市町村側の制度に新潟市の制度を合わせるようにしているものもある。
- 住宅リフォームの補助申請で窓口対応がひどかった。
 - 調査して必要であれば是正を求める。
- 事業者が事業ゴミではなく一般ゴミに出している実情を改善してほしい。
 - 調査したい。

5. 秋葉区会場

(議会報告) ※質疑なし

(意見交換)

- ポイ捨て条例について、時間制限があるのか。費用対効果は。議員提案なのか。
 - 時間制限はないが、議員提案かどうかは承知していない。また1,000円の過料などがあり、ポイ捨ては少なくなっていると思う。
- SLは煤煙である。なぜやめさせないのか。市民から税金を取っていて、なぜJRに言えないのか。
 - 後日、回答する。
- 参加者が少なくがっかりした。議員1人1人どう思っているのか聞きたい。

- 開催の都度アンケートを記入してもらい、広報委員会で検討している。
- BRTについて、市民の間でも賛否両論だが反対が多い。なぜ公設民営にしたのか詳しく聞きたい。BRTをやり赤字になったら誰が責任をもつのか。議員には責任がある。予算を通したのだから。そこまで議論しないで採決したのか、委員会の委員に聞きたい。
- 今の意見を真摯に認めどう反映していくか、1つの教材とさせていただきたいが、誰が責任を持つかということは、今この場で我々が答えられるものではない。
- 公設民営については市から提案し、環境面への配慮や高齢化に向け持続可能な公共交通を目指すという新潟市の考えに、新潟交通が手を挙げた。皆さまの意見を反映するため、各地区での3巡目の説明会も行う。身障者の乗り換えについては「直通の便がほしい」との意見が、他の区でもある。路線再編について皆さまの意見が反映されるように言っているし、運賃についても乗り換えによる負担が、大きくならないようにと言っている。
- 合併をして借金が増えたのか、減ったのか。年間の予算と借金について、議員数を減らす努力や報酬を減らすとか提案があったのか。何のために合併をしたのか。
- 議会としてどうするというものはなかったが、議員定数は削減することになった。借金については細かい資料はないが、増えている。合併は各市町村の議員なりが、新潟市と一緒にしようということで合併した。

6. 南区会場

(議会報告)

- 建物全部の補強をやる必要があり、かなりのお金がかかる。横浜市や川崎市ではプチリフォームといって、部分的な耐震リフォームの支援を実施している。耐震補強の支援について新潟市もできる範囲、例えばプチ耐震補強でもよいから、支援金を出すという方向で前向きに検討してもらいたい。
- 健幸すまい支援事業は、安心安全につながるバリアフリー化のみでなく、省エネにもプラスをしてということが一番の目的となっている。これまでと補助率が若干下がることになるが、幅広い市民の方から利用していただくことについては、理解できるということで議会も9月議会で承認をした。市民から幅広い意見をいただく中で、より充実した制度になるよう努めていきたい。
- 連節バスの試運転を前回やったが雪の時にやってほしい。BRTの説明会に2回出たが雪の対策を聞いても答えられない。導入後の見直しは難しいと考えるので、税金でやるわけだからどうしたら失敗しないか、議会はチェック機能という二元代表制の一番大きな部分であるから、しっかりとやってもらいたい。
- 議会でも雪道走行などについて懸念が出ており、今後、検証が必要と考えているが、大雪が降ったときの対応は、通常のバスも連節バスも同じ対応にならざるをえないという市長答弁もある。今月、千葉の京成バスからバスを借りて2度目の試行運転を行うが、そこで雪道の検証ができるわけではなく、ご指摘については、今回のバスの試行実験では見極めは難しいと思う。18日からの各区において新

バスシステムに関する説明会が予定されていることから、懸念している点がクリアできるのかなどを質してもらえればと思う。市議会も今回の議会報告会を8箇所でやっており、いろいろな意見をいただいている。そういった意見を咀嚼（そしゃく）しながら議会対応、行政対応について、それぞれの議員も意を持って対応していきたい。

- BRTについて乗り換えるという点に懸念がある。その実験をしなければいけないし、一番大切なことを忘れている。議会でもその点を追及してもらわないといけない。

→ 乗り換えについても6月、9月の議会の中でもやり取りを行っている。市の方としても議会質問や2巡目の意見交換での疑義など、その点も踏まえて今回実証する。市民説明会に出席して、行政側が皆さまの疑問にきっちりと答えて、実現できるのかどうか見極めをしていきたい。

- 本庁と区役所との情報共有について前回も質問したが、区との情報共有は大切なことと考えるが、食育・花育センター、アグリパーク、農業活性化研究センターの整備方針などについて、それがなされていない。このような状態を議員からも担当課に是正をしてもらう必要がある。

→ 担当課対応について、今一度、議会側から確認をさせていただいて、しっかり区と連携をするように対応していきたい。

(意見交換)

- 南区選出議員はわずか3人。合併前の旧白根市は22人。味方、月潟でも議員が15人位で、計50人以上がいた。3人では民意の反映ではない。今後、検討してもらいたい。

→ 今回の削減は2年前に議員定数調査特別委員会を立ち上げ検討し、5減案、8減案、0減（現行）という3案にまとめた。それに基づき今回の9月議会で5減案を決定した。議会としても二代表制の一翼を担う市議会として努めたい。

- 中央環状道路について、合併前の白根市議会で開発ルートに合意し、議決している。合併建設計画の条件であったが、我々が分からないうちにルートが変更された。市民に情報を提供せず、地元のコミ協も知らない。変更する場合は変更する前に、地元住民に納得いく説明が必要である。

→ 中央環状道路はいろいろな経緯があり、市も話し合いをしている。議会も検討したが、今の状況からみても、再度地元の皆さま、あるいは南区の議員からも聞きたいと思う。この報告会では、基本的には返答することができない案件であるが、貴重な意見でもあり、無視できない問題とも思う。

- 合併建設計画に伴う中央環状線の問題は、情報の開示をしっかりとってほしい。
- 新潟市には空き家問題に対処する条例などが無い。役所は建物の外の不法投棄ゴミは対処できるが、家の中のものはできないとのこと。家の中のゴミが腐らないうちに始末するためにボランティア袋をもらいたいと申し出たが、それもできないという返事で困っている。役所が処分する方向の条例などを作ってもらいたい。また空き家を持ち主がいらないと言っているなら、市で対処してほしい。

→ 近所の人からの苦情などは全区である。このことは今後の大きな課題と思う。議会としても、行政と話をしている最中であるし、皆さんには大変ご迷惑をかけ

ていると思うが、問題提起もしている。ただ相手方が市の税金で始末してくれという感覚をもっていても、これは絶対にできない。

- コミュニティ協議会の中には、進んでいるところ、なかなかうまくいかないところ、現実的に組織運営がうまくないところがある。コミュニティ協議会をいろいろな方向性の中で位置付けるなら、基盤強化、人材確保、財源確保を十分やってもらって、それぞれの組織の均一化を図るべきでないか。議会からも積極的に働きかけてもらいたい。
 - 連合自治会の各自治会などがコミュニティ協議会に入っている。連合自治会は各自治会から資金を集めて運営していることから、コミュニティ協議会は連合自治会から助成金をもらって運営してはどうか。自治会は任意の団体なので議会はそう強く言えないが、議会サイドからも、議会報告会でこのような意見があったということ、執行部側に伝える義務を負っているのでもっとしっかりと伝えたい。
- 塩俵橋の架け替えはいつできるのかと聞いたら中ノ口川の河川改修の都合などで、いつになるか分からないという回答である。中ノ口川の河川改修が決まらなければ、中ノ口川の橋は一本もできないのか。それなのに高井橋はやっているのはなぜか。
 - 塩俵橋の件は、分かる者がいないので確認をさせてもらいたい。
- アイスアリーナの維持管理費はいくらかかるのか。
 - ホームページで回答をしたい。

7. 西区会場

(議会報告)

- 「新聞への消費税軽減税率適用を求める意見書」と「消費税増税の中止を求める意見書」の違いはなにか。
 - 一つは、新聞販売店の皆さんから出されたもので消費税増税の際に新聞への軽減税率を適用してほしいというもの。もう一方は市民の皆さんから出されたもので文字通り消費税増税の中止を求めたもの。
- 文教経済常任委員会で、補正予算を組まなければならない妥当性はあるのか。
 - 必要という認識で、妥当だとして可決している。
- BRTが遅くなった責任を誰がとるのか。どうなるのか方向性を教えてほしい。
 - 遅れた理由は、市民に対する説明不足。先の見通しは、連節バスを購入するかどうかは12月議会で審議する予定であるが、執行部は粛々と進めている状況。
- 各委員会の報告資料の記載がまちまちで、主な意見を口頭で言われても理解できない。総務常任委員会のように細かく資料に記載してほしい。
 - 今後の議会報告会の検討材料にしたい。
- 議員定数で5減だと良くて、8減がなぜだめなのか。
 - 1年半ちょっと議論して1つにまとまらず、結果として3つの案になった。それぞれの案で採決になり、8減よりも5減の方が良いという意見など、それぞれの理由で3つの案が出され、5減案が多数になった。

(意見交換)

- 震災のがれき受け入れについて、勉強したりアンケート調査したり、苦勞してやってきたが、結果がでなかった。地域也大混乱した。市長も議員も反省してほしい。
 - 行動に移った時に反対者とのもめごとが起こり一回止まった。次に水銀等の発生で、もう一度チェックすることになった。その間に長岡等で処理が進み、「新潟市はいいよ」となった。
- 越後線の越後赤塚駅に屋根付きのベンチを作してほしい。越後線は、風や雪で止まって困る。ポイントなどはカバーをしてほしい。
 - 駅や列車が止まる関係については、JRにも要望を伝えたい。
- 越後線の踏切（寺尾踏切）の朝晩の渋滞がひどい。不可能かとも思うが高架橋が一番良いと思う。できれば、議会でも議題の片隅に入れてもらいたい。
 - 持ち帰らせてもらい、執行部にも伝える。
- 西区選出の議員も参加して聞いていただけるとありがたい。
 - 選出区以外となっているが、これからどういう議会報告会にしていくか議論している。ご意見は議会に持ち帰る。
- 議会は執行部に甘く見られている。だから、連節バスもドタバタしている。連節バスも市長はやるという方向だ。議会はどう対応するのか。
 - 連節バスの購入議案は12月議会に出てくる予定。まだ出てこないのので、どう対応するとは言えない。総務常任委員会では、委員長・副委員長で皆さんのご意見も踏まえた議論をするために打ち合わせしている状況である。
- 連節バスの説明会に行ってきた。青山で乗り換えるのは今より時間がかかる。議会の見識が問われる。
 - 皆さんのご意見も含めてしっかり議論して、結論をだしていく。
- 会派それぞれで新バスシステムについてどういうふうに考えているのか。
 - 個別の会派の考え方については、ここでは控えさせていただく。
- 新潟県知事が「四年制大学に環境学部を設けるべき」という話をした。こういう話が出た時に、新潟市議会としての対応はどうか。
 - 市は市立大学をもっていない。他で4年制大学を設置する際に協力はできると思うが、現状は議論されていない。
- ゴミ袋が高すぎるという認識だが、それについて行政は何も対応しない。
 - 決まったことで、議員のなかでは議論されていない。ご意見があったことを執行部に伝えたい。
- 決算特別委員会の委員長が言ったことが無視されている気持ちはないのか。委員長の発言に対して、行政が何も対応しないことについてどう考えているのか。
 - 委員長の意見ではなく、委員会で議論があったことの報告だと思う。
- 連節バスは市民の声を聞いてから進めるべき。補助金ありきで説明会を開くのはおかしい。あれだけの大きなお金を使って外車を購入する際バックマージンが発生するがどこに行くのか。
 - バックマージンについては、承知していない。
- 説明会に行くと、「検討します」「新潟交通と相談します」「今後話し合っていきます」という答えしか返ってこない。不思議だ。質問されたらすぐ調べて返答してほしい。市の人に伝えてほしい。

- 市の説明会のことなので、議会としては何とも言えないが、ご意見として伺う。
- BRTについて市議の方は新聞で×や△と回答していたが、「…」と回答した人は不信感があるからだと思う。それなのにどうして通ってしまうのか。
 - 取材を受けた際に、話したことが○×△になった。
- 市議の皆さんが連節バスを実際に視察に行くという記事を見た。もし行った方がいたらその様子を伝えてほしい。
 - 議員個人の意見は言えないことになっている。各議員に聞いてもらいたい。
- ほんぼーとに、BRTという見出しの本は一冊もなかった。言い換えれば、BRTは交通として一般流通していないものだと思う。公共性では平等に考えてほしい。
 - ご意見として伺う。
- 市民病院へのダビンチ導入に3億円かかった。有効に使ってほしい。
 - 癌手術用のロボットで、25年度に契約して入ったばかり。手術で手振れがないことから、きちんと手術ができる。保険がきかない手術だが、精度が抜群なので期待している。
- 議員定数が、8減が認められなくて、5減になった理由は。どうして5人減になったのか。何を根拠にして考えたのか。
 - 区ごとの一票の格差が一番小さい。各区の減が、1人以上にならないという理由で5減になった。

8. 西蒲区会場

(議会報告)

- 議会報告資料にページを振ってもらいたい。
- 公共交通調査特別委員会をつくった目的は、連接バス導入のためなのか。
 - 公共交通調査特別委員会は、連節バスだけではなく、全体的な公共交通について、執行部や事業者から話を聞いたり、先進地の事例を調査するなどしている。
- 環境建設常任委員会が予算執行期間を延ばしたのは、予算を認めたことになるのか。オンブズマンによる住民訴訟が起こされているが、環境建設常民委員会の審議状況をきかせてほしい。
 - 環境建設常任委員会の議論は賛成反対で始まったのではなく、3年前くらいから都市公共交通の検討がされ、モノレール・LRT・BRTなどいろいろな意見が出された結果、BRTを選択して、連接バスを導入することになった。BRTについては市民への説明会や試乗会を行っている段階で、まだまだ説明不足だったり、疑問や改善の提案などもされている。
- 区バスの収支率は30%だが、全市一律でいいのか。人口減で利用する人自体が少ないことを考慮すれば、配慮が必要ではないか。
 - 区バスの収支率30%はたいへんで廃線になる場合もあるが、公共交通はなくすわけにはいかない。区自治協の中には公共交通の特別委員会を設置して議論しているところもあり、区バス・住民バスではなく、より合理的なデマンド交通の実施などが要望されている。

- 区バス・住民バス・デマンドの収支率の見直しがされるという情報があるが、どうか。
 - 30%で線引きしてきたが、この数年多くの議員から引き下げるべきとの意見が出されており、市民の足をなくしてはならないという点で議会では議論をしている最中である。
- (意見交換)
- 議会報告会に地元の議員がいないのはどうしてなのか、議員個人の意見を聞きたいのに残念だ。
 - 個人の議員は会派に所属しており、会派で議論し会派意見として発言していくわけで、個人としての意見を聞かれても答えられない。また議会報告会は議会基本条例に基づき行っており、議員個人が賛成か反対かということは言えない。
- 連節バスを含めて決まったことの報告ではなく、今後のことを報告してほしい。
 - 連節バスについて、最初から賛成反対で委員会で議論しているのではなく、執行部提案の何が問題で、何が不足しているかを議論している段階。
- 連節バスにこだわるが、市の出した新交通システムのパンフレットを読んで、例えば「朝のラッシュ時、バスレーン確保のため自家用車は規制されるのでは？」と質問すると、検討中としか答えない。議会としてよく調査して、市民に話をしてほしい。
 - 連節バスについては、市民の意見や危惧をふまえ、現在の一般バスと同じレーンを走行することや、8両購入を半分の4台にするなど、方針を変えてやっている。乗り換えについても懸案事項だが、乗り換えのない一般バスも走っており、試行しながらやっていくということであり、市民意見を聞きながら、検討するようしていく。また交通規制については、管轄は県警であり、新潟市が決めることができず、はがゆい思いはしているが、ご意見は伝える。
- 「大きな区役所」といいながら、毎年5%のマイナスシーリングの中で予算がないといわれる、なにが「大きな区役所」か。
 - 「区づくり予算」という区で使える予算をつけている、まだ大きな予算にはなっていないが、議員は区から選出されているので区民の要求を実現するためにがんばるのは当然だと考えている。また今後はさらに広げていくために一律ではなく、人口や面積要件を勘案しながら予算をつけるために、コミュニティ協議会や自治協議会と相談しているところである。
- 市民のために、議員は自分の意見を率直に述べてもらいたい。
 - 議員の個人の意見を言いたいがあるルールの中で言えない。